



なぞって練習

源氏が六条に恋人を
持っていたころ、御所
からそこへ通う途中で、
だいぶ重い病気をし、尾
になつた大貳の乳母を
訪ねようとして、五
条辺のその家へ来た。
乗ったまままで車を入
れる大門がしめてあつた
ので、後者に呼び出さ
せた乳母の息子の惟光
の来るまで、源氏は
りっぱでないその辺の
町を車からながめてい
た。

■参考

※大貳【だいに】

※乳母【めのと】

※惟光【これみつ】

(青空文庫のフリガナより)